

目の前の活動に「手を出す」力を育む ～野沢温泉道祖神祭りに携わる「三夜講」の経時的变化の分析～

Developing skills for getting actively involved in a task at hand: A diachronic study of “San’yako” engaged in Nozawa-onsen Dosojin festival

榎本 美香^{1*}
Mika Enomoto¹

伝 康晴²
Yasuharu Den²

¹ 東京工科大学 メディア学部
¹ School of Media Science, Tokyo University of Technology
² 千葉大学 文学部
² Faculty of Letters, Chiba University

Abstract: In this paper, we report on a diachronic study of “San’yako,” people who are engaged in Nozawa-onsen Dosojin festival. They are working together for three years for the preparation of each year’s festival, such as logging and timber processing and construction of a big shrine pavilion. In the first year, they sometimes stand awkwardly, failing to find what to do, but in the subsequent years, they can get actively involved in a task at hand. We show how they develop these skills, by understanding a sense of values behind such skills, based on the interactional data obtained from our longitudinal recordings of the field.

1 はじめに

森紀一氏^{*1}曰く、道祖神祭りの担い手たちの集団は昔、村の若者たちの教育機構であった。かつての「若者組」は解体され、現在では厄年 42 歳を含む「三夜講」と 25 歳厄年の男衆が道祖神祭りの担い手となっている。村の男性たちはこの組織に参加し道祖神祭りを準備することは「野沢に生まれた男の宿命」と捉えており、都市部に出ている者も帰郷して準備を手伝う。また、現在野沢に住んでいる者も参加資格が与えられ、幼なじみではない余所者も祭り仕度の中で村人に溶け込んでいく。

現三夜講の都市部で働く男性は、最初に「道祖神年間予定表」(年間 30 日程度の道祖神祭り準備作業の日程表)が送られてきた時には、「(こんなに参加するなんて)ない!」と思ったそうである。ところが、10 月の御神木伐採作業に出てみて「楽しくなっちゃって」と最終的にはどんな些細な行事にも顔を出していた。また、自分たちの祭りの代が終わったのにひたすら造成作業をしていた人に聞けば、「あんちゃんら(兄たち=上の代の人々)やってくったから、おっさら(弟たち=下の代の人々)にもしてやらねとな」と言う。三夜講は、同級生たちの友情

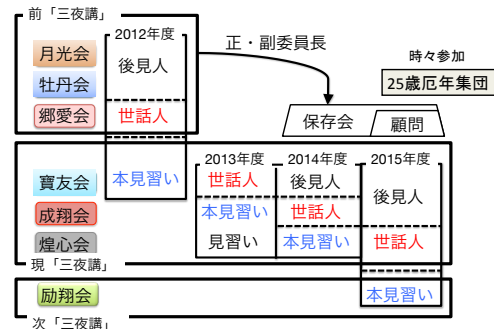


図1 「三夜講」模式図

を温め、隣り合う年齢層の間に兄弟関係を築き、その関係性の中で祭りの技法だけでなく村人としての心得を伝承していく構造体として今も機能しているのである。

現三夜講を例に、この組織を詳しく説明しよう。2013 年度に編成された三夜講は、数え年 42 歳の上組である寶友会、41 歳中組の成翔会、40 歳下組の煌心会からなり、3 年間この同じメンバーで祭りの仕度を行う(図1)。祭りの主たる執行を担うのは毎年厄年の 42 歳であり、2013 年度は寶友会が世話人としてこれを務めた。この年、成翔会是本見習い、煌心会は見習いとして参加した。翌年には、成翔会が世話人となり、煌心会が本見習いとして、寶友会は後見人として参加した。翌年(今年度)は、煌心会が世話人となり、寶友会・成翔会は後見人と

* 連絡先: menomoto@stf.teu.ac.jp

^{*1} 地縁団体野沢組道祖神保存会顧問であり、現在の保存会を形作られた方である。

表 1 道祖神祭りの準備行事と既収録内容

行事名	活動内容	時期	既収録時間	既収録年度
シート洗い	ブルーシートの掃除	6月上旬	11時間	2014, 2015年度
御神木伐採	道祖神木像の伐採	7月中旬	10時間	2014, 2015年度
ぼや出し	社殿材料の収集	9月下旬	29時間	2013, 2014, 2015年度
御神木伐採	社殿材料の木材伐採	10月中旬	238時間	2012, 2013, 2014, 2015年度
御神木里引き	御神木運搬等	1月13日	158時間	2012, 2013, 2014, 2015年度
社殿組み	社殿造営等	1月14日	214時間	2012, 2013, 2014, 2015年度
道祖神祭り	上棟式・祭り	1月15日	178時間	2012, 2013, 2014, 2015年度
シート片付け	道祖神場のブルーシート上げ	4月上旬	8時間	2014年度

して参加した。三夜講最終年度には、引き継ぎのため、次の三夜講の上組（今年度であれば励翔会）も本見習いとして参加する^{*2}。各会には、それぞれ道祖神委員長・道祖神副委員長・総括・副総括・事務局長と呼ばれる5役と道具長・縄長・ぼや長・桁長・帳付けなどの役職^{*3}があり、各役ごとに行うべき作業が決まっている。

特に、同じ役職の世話人と本見習いは互いを「あんちゃ」「おっさ」と呼び、常に行動を共にしながら、実践の中で様々な知識や技能を伝承していく。この2人に着目するならば、熟達者が初心者に手本を示し、実際にやらせて見守り、問題があれば手助けするという「認知的徒弟制」(Brown, Collins, & Duguid, 1989) の関係にある。あるいは、Lave and Wenger (1991) の例で言えば、産婆の家系の少女が成長過程の中で祖母や母親と暮らしながら、産婆術だけでなく、その実践のエッセンスを吸収していくという「正統的周辺参加」と類似する。

しかし、三夜講がこれらと異なるのは、世話人と見習いがそれぞれ30名程度の大集団である点である。それぞれの役職の者たちが多数入り交じる相互作用が発生し、見習いは直属のあんちゃから教わるだけでなく、他の役職の世話人や同級生とのやりとりを通じて他者と共有しなければならない様々なモノゴトを習う。我々はこれを以下に示す共同体 心体知 と呼ぶ(図2参照)。

心: 成員たちがもつ価値観や見識, 信頼感といったエートス(e.g. 他者への気配り, 自己犠牲の精神)

体: 成員間で力や身体位置の配分が必要な協働活動技法(e.g. 唄のリズムと木や縄の操作との同調)

知: 祭具の名称や用法, 祭りのしきたりといった共有知識(e.g. 社殿各部位の木材や縄結びの呼称)

本研究では、祭りの準備活動を通じて、今何が必要かを瞬時に察して「手を出す」力が三夜講を通じて経時的に獲得されていく様子を分析する。ブルーシートを広げた

^{*2} 三夜講以外では、前三夜講の正副道祖神委員長の6人が保存会となり社殿造成・御神木等伐採の指導を行う。特に、上組であった2人は社殿棟梁・山棟梁としてこれらの作業を差配する。また、任期なしの保存会顧問は要の部分において保存会を補助する。25歳厄年は主だった行事にのみ参加する。

^{*3} 「長」とならない人も何かの「係」に属し、道具係・縄係・ぼや係・桁係などと呼ばれる。

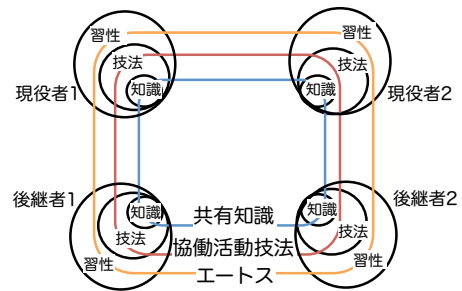


図 2 共同体 心体知 のモデル図

り雪かきを手伝うなど一見何気ない共同活動である。体が、目の前の出来事から問題を検出したならば速やかに行動に移ることという心 に根ざしていることを示す。

2 分析資料

収録内容を表1に示す。最大7名程度でそれぞれデジタルビデオカメラで被写体を追いながら撮影している。カメラ間の時間的同期を取るため、撮影開始時・終了時には可能な限り手拍子を入れる。表1中を付した映像データは全撮影者の合成映像を作成し、複数アングルでの同時観察を可能にしている。

3 分析 1: 玉切りにみる経年的変化

玉切りとは伐採した木を使用用途に応じた長さで伐り分けることである。この場に参加しているのは、山棟梁を筆頭とする保存会3名^{*4}、後見人・世話人・見習いの副委員長、職人の木樵さんである。木が倒れると、尺棒^{*5}をあてがい測定、長さの決定、切断位置の記入が行われる。この玉切りという作業に上記の人々がいかにか手を出すかをみていこう。

3.1 玉切り模範例

前三夜講3年目の2012年度をみる。2年の見習いを経た郷愛会が世話人である。次の年からはこの三夜講上

^{*4} 前三夜講で各会の副委員長であった者たちがこの作業に従事する。

^{*5} 1尺おきに刻みを入れた長さ13尺(約4メートル)の角棒で、メジャーとして使われる。巻尺と異なるところは、あてがった瞬間その部分の木が直線であるか否かが明白な点である。

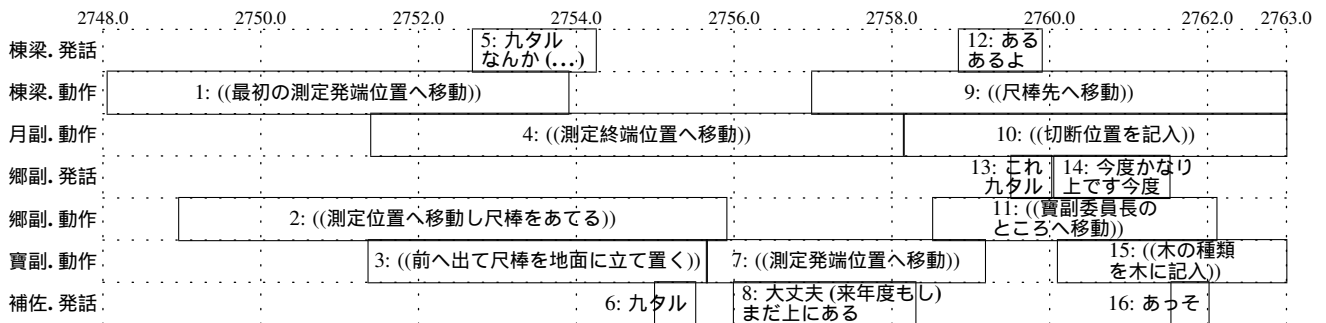


図3 断片1: 玉切りの模範例(棟梁=山棟梁, 月副=月光会副委員長, 郷副=郷愛会副委員長, 實副=實友会副委員長)

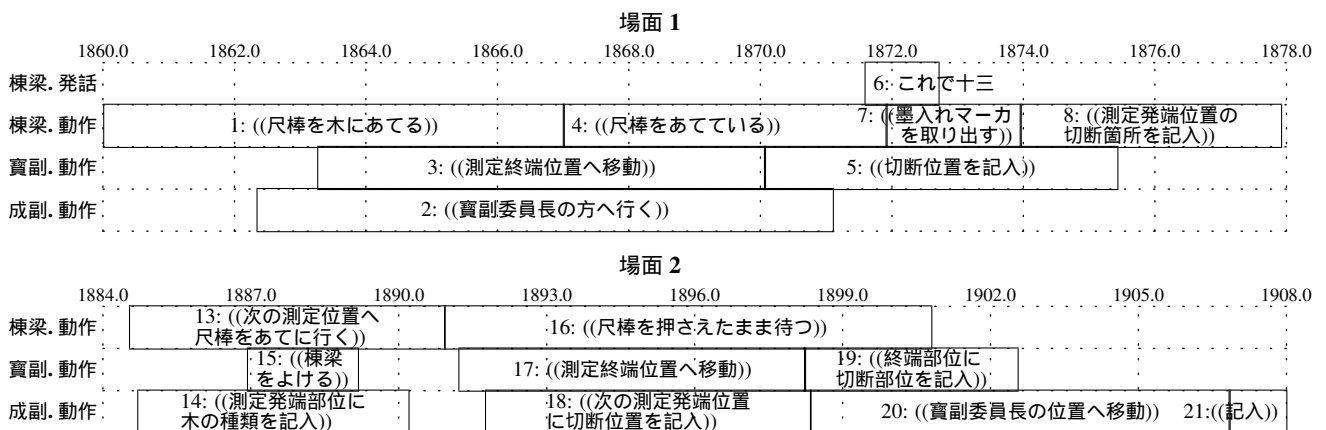


図4 断片2(棟梁=山棟梁, 實副=實友会副委員長, 成副=成翔会副委員長)

組の月光会の副委員長が山棟梁となるため、山棟梁見習いとしてこの場に参加している。見習いの實友会副委員長は初めての参加である。

図3の断片1は2012年10月6日のものである。木が倒れて地面に跳ね返る中、山棟梁と郷愛会副委員長がほぼ同時に動き始める(1, 2)。木の根元である測定発端位置に山棟梁が移動すると同時に(1)、郷愛会副委員長が尺棒をあてる(2)。すかさず、山棟梁が「九タルなんか(九尺垂木にしようかの意味)」と言うと(5)、補佐さんが「九タル」と答える(6)。木の枝側の測定終了位置へ移動した月光会副委員長(4)は^{*6}、9尺の位置に切断線を記入する(10)。持っていた尺棒を置くのに手間取った實友会副委員長(3)が測定発端位置へ移動すると(7)、郷愛会副委員長がそちらへ移動し(11)、「これ九タル」と記入すべき内容を教えている(13)。

注目すべきは、郷愛会副委員長が山棟梁とほぼ同時に動いて、尺棒を操作して木の測定の一翼を担い、山棟梁と補佐さんの会話を聞いてその内容を見習いの副委員長に教えるということと同時にしている点である。

^{*6} カメラには写っていないが、移動距離から考えてもう少し早いタイミングで動き始めていたと考えられる。

3.2 三夜講初年度

三夜講、保存会の総入れ替えがあった2013年度をみる。昨年見習いについていた實友会の副委員長が世話人である。新たに中組の成翔会副委員長が見習いとして入っている。

図4の断片2は2013年9月28日である。「ぼや出し」という行事の後に行われている玉切りで、成翔会副委員長にとっては初めての作業である。尺棒を操作しているのは完全に山棟梁である。場面1で山棟梁が尺棒を木にあてると(1)、世話人の實友会副委員長が測定位置へ移動し(3)、「これで十三」と言われると(6)、その位置を記入する(5)。見習いの成翔会副委員長はなぜか實友会副委員長と同じ位置へ行ってしまったため(2)、測定発端位置の記入は山棟梁が行っている(8)。場面2で山棟梁が次の測定位置へ尺棒を動かすと(13)、實友会副委員長は山棟梁が通るのをよける(15)。この出遅れにより、實友会副委員長が測定終了位置へ移動するまで(17)、尺棒を押さえたままの山棟梁を待たせることになる(16)。

昨年度見習いについていたとはいえ、三夜講初年度の實友会副委員長は山棟梁に出遅れることが多く、また山棟梁も自ら尺棒を操作してしまっているため、他の者は尺棒に手出しする隙がない。

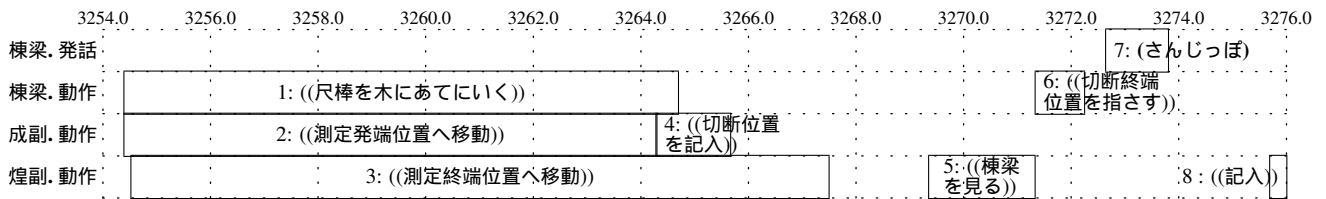


図5 断片3 (棟梁=山棟梁, 成副=成翔会副委員長, 煌副=煌心会副委員長)

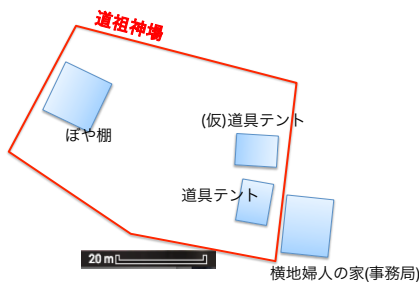


図6 道祖神場の初期状態

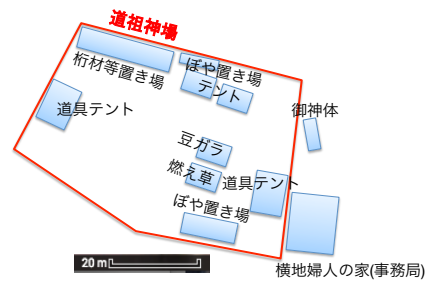


図7 道祖神場の最終状態

3.3 三夜講2年目

三夜講2年目の断片3を図5に示す。2014年10月11日である。世話人となった成翔会副委員長と見習いの煌心会副委員長は、山棟梁が尺棒をあてに行く(1)と同時に動き出し、それぞれ測定発端位置(2)と測定終了位置へ移動している(3)。山棟梁の指示「(さんじっぽ)」があると(7)、煌心会副委員長はそれを記入する(8)。

煌心会副委員長がこの行事に参加するのは初めてであるが、2年目のベテラン見習いであることやこの半月ほど前に行われた「ぼや出し」という行事の後に行われた玉切りに参加していることが、この流れるような3人の連携を生んでいると考えられる。

4 分析2: 道祖神場の整備にみる経年的変化

道祖神祭りの3日前、1月13日午前の作業開始前の道祖神場は図6の状態である。この場には三夜講全員と25歳厄年がいる。最終的には、図7のような配置で物が置かれる。今からみるのは、小枝を重ねた「ぼや」がぼや棚から運びだされる前に、手の空いている人がどう携わるかである。

4.1 三夜講初年度

図8の断片4は三夜講初年度の2014年1月13日のものである。世話人は賣友会である。本見習い成翔会、見習い煌心会にとっては初めての作業である。基本的には上下の年齢で同じ役職の者は同じ作業をすることになっている。

ぼや棚からぼやを運び出すためには、その周囲の雪をどけて全体を覆っているブルーシートを外す必要がある。世話人のぼや長はぼや棚脇でこの作業を監督してい

る。「さ:めくってもらって」という号令(3)のもと、付近にいた人々は一斉に雪をどけてブルーシートの端を雪の下から引きずり出す。賣友会ぼや長が最後に雪の下に挟まっているブルーシートをまくろうとすると(5)、近くにいた成翔会の委員長や煌心会の副委員長もこれを手伝いに駆けつける(6, 7)。

一方、図9の断片5はこの直前時点の少し離れた場所である。成翔会のぼや長はぼや移動先(図7下方のぼや置き場付近)に立っている(2)^{*7}。たまたま、ぼや置き場に掲げたぼやの仕分け用の看板の位置を確認したりしている(4)。煌心会のぼや長はただ付近に立っただけである(3, 6, 10, 11)。煌心会のぼや係であるダニエル^{*8}も、煌心会のぼや長と一定の距離を保って佇んでいる(1, 5)。本来であれば、賣友会ぼや長はじめ皆がぼや運び出しの準備をしている(図8)のだから、この3人が真っ先に手助けに行くべきであるが、この年は準備作業が終わるのを待っているだけであった。

また、桁係である煌心会の山下も近い辺りに同じように佇んでいる(7, 8, 15)。賣友会桁長が成翔会桁長やぼや長にぼやの積み方や養生の仕方を説明しているのと、同期のぼや係ダニエルがその辺りにいるので、何となくこの辺りに立っているのだと考えられる。

4.2 三夜講2年目

2015年3月13日である。成翔会が世話人となり、煌心会は本見習いとなっている。成翔会ぼや長は朝の挨拶

^{*7} 断片5や6の2と3などで複数の動作の開始時間がぴったり一致しているのは、被写体がカメラに写り始めたのがそのためである。他の断片ではすべての動作開始はカメラに収まっている。

^{*8} 人名はすべて仮名(かめい)

1500.0	1520.0	1540.0	1560.0	1580.0	1600.0	1620.0	1640.0	1660.0	1680.0	1700.0
賣ば. 発話:	3: さ:めくって もらって					10: そっち側 (マガラ)切れた?				
賣ば. 動作:	1: ((ぼや 棚へ移動))		2: ((ブルーシートを 外すのを見守る))		5: ((めくれない箇所 をめぐりに行く))			11: ((最後に雪に挟まって いるブルーシートを外す))		16: ((ブルーシートを ひきずっていく))
賣帳. 動作:	13: ((ブルーシート をどける))									
成長. 動作:	4: ((ブルーシートを めくっていく))		6: ((賣ばや長 を手伝う))			8: ((スコップで雪をかき出す))		12: ((なたで縄 を切る))		15: ((ブルーシートを どけるを手伝う))
煌副. 動作:	7: ((賣ばや長 を手伝う))			9: ((最後に挟まっている ブルーシートを外すを手伝う))				14: ((ブルーシート をどける))		

図8 断片4 (賣ば=賣友会ばや長, 賣帳=賣友会帳付け, 成長=成翔会委員長, 煌副=煌心会副委員長)

1330.0	1350.0	1370.0	1390.0	1410.0	1430.0	1450.0	1470.0	1490.0	1510.0	1520.0
成ば. 動作:	2: ((ぼや移動先 に立っている))		4: ((ぼや置き場 を確認))		9: ((ぼや移動先付近にいる))		12: ((ぼや移動先の脇にいる))			
煌ば. 動作:	3: ((成ばや長の側 に立っている))		6: ((ぼや移動先 に立っている))		10: ((成ばや長の側にいる))		11: ((ぼや移動先の脇にいる))			
賣桁. 動作:	14: ((ぼや移動先の脇にいる))									
ダニエル. 動作:	1: ((燃え草を移動した あたりに佇んでいる))					5: ((仮道具テント付近に佇んでいる))				
山下. 動作:	7: ((仮道具テント 前に立っている))		8: ((仮道具テント付近に立っている))			13		15: ((ぼや移動先の脇にいる))		
13: ((ぼや移動先の脇に移動))										

図9 断片5 (成ば=成翔会ばや長, 煌ば=煌心会ばや長, 賣桁=賣友会桁長). 枠内に収まらない転記は欄外に記載

2080.0	2100.0	2120.0	2140.0	2160.0	2180.0	2200.0	2220.0
成ば. 動作:	2: ((ぼや棚 前へ移動))		5	7: ((雪かき を再開))		13: ((ぼや棚前の雪かき))	
煌ば. 動作:	3: ((ぼや棚 前へ移動))		6	8: ((スコップを持って 戻ってくる))		14: ((ぼや棚前の雪かき))	
ダニエル. 動作:	4: ((ぼや棚 前へ移動))		9	10: ((成ばや長 の方へ移動))		11: ((煌ばや長が戻って くるのを待っている))	
山下. 動作:	1: ((雪かき))					12: ((ぼや棚前の雪かき))	
賣長. 発話:						18: ((雪かき))	
賣長. 動作:						21: 博之さ:その竹ん棒使って: 大日さんのあの雪払って	
博之. 動作:	15: ((川を見に行く))					16: ((作業する人 たちを見守る))	
						17: ((不要な 縄を捨てる))	
						19: ((作業する人 たちを見守る))	
						22, 23	
5: ((煌ばや長に指示を出す)) 6: ((成ばや長に指示を受ける)) 9: ((近くにあったスコップを持つ)) 22: ((賣委員長の指差す方向へ歩く)) 23: ((竹箒を持って大日さんへ))							

図10 断片6 (成ば=成翔会ばや長, 煌ば=煌心会ばや長, 賣長=賣友会委員長)

後すぐにぼや棚に被っている雪を払う作業を始めている。成翔会ばや長がぼや棚の雪かきをしている間、煌心会ばや長やダニエルがその周辺的な作業、不要な木や縄の片付けをしている。図10の断片6では、ぼや置き場を確認に行った後、またぼや棚へ3人で戻ってくるシーンである(2, 3, 4)。成翔会ばや長は煌心会ばや長に指示を与え(5)、雪かきを再開する(7)。この指示はおそらく同じように雪かきをするようにというものであったのであろう。そばで聞いていたダニエルもいち早く立てかけてあるスコップを見つけて手に取る(9)。ただ、すぐには雪かきを開始せず、煌心会のぼや長がスコップを持って戻ってくるのを待って(11)、開始している(12)。昨

年、彼ら同様に佇んでいた煌心会桁係の山下もこの断片中ずっと雪かきをしている(1, 18)。

一方で、賣友会の桁係である博之はこの雪かきする人々を見守っている(16, 19)。後見人となった賣友会は作業に直接手を出さなくても良いのかと思いきや、すかさず賣友会委員長に「博之さ:その竹ん棒使って:大日さんのあの雪払って」と作業を割り振られている(21)。やはり、後見人となっても作業に何も関わらないのは注意される行動のようである。

4.3 三夜講3年目

2016年3月13日である。煌心会が世話人となり、次期三夜講上組の励翔会が本見習いとなっている。この年

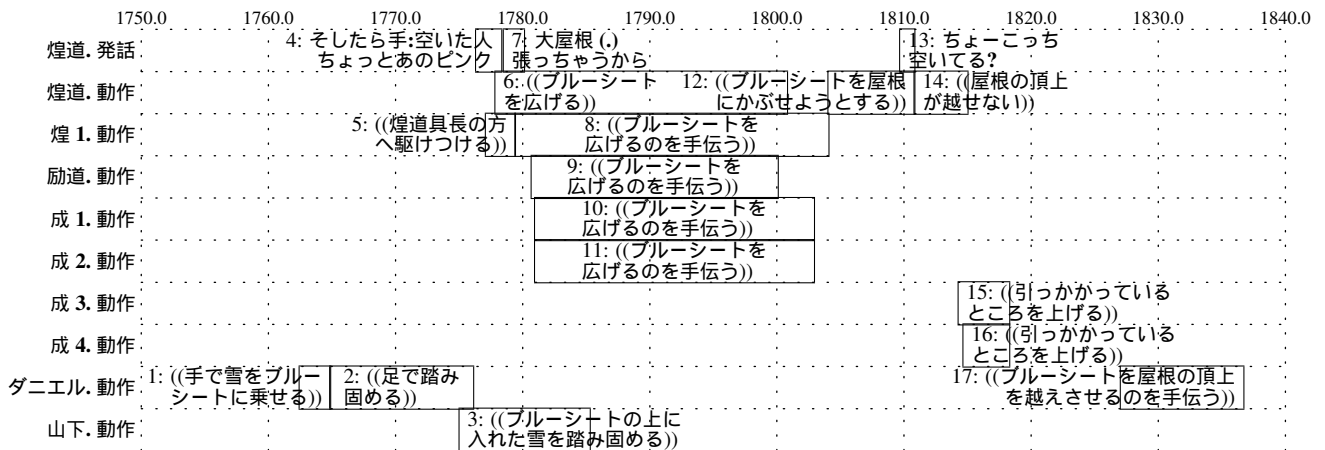


図 11 断片 7 (煌道=煌心会道具長, 煌 1=煌心会 1 (道具係), 励道=励翔会道具長, 成 1~4=成翔会 1~4)

は雪が少なく、ぼや棚の雪かきが必要なかったため、これまでと同様の場面はなかった。代わりに、道具 TENT をぼや棚があった位置へ設置するという図 11 の断片 7 をみる。この作業の責任者は道具長である。

煌心会道具長が「そしたら手:空いた人ちょっとあのピンク (ピンクの目印のブルーシートを使うという意味)」と言うと (4)、煌心会道具係の 1 人が駆けつける (5)。続けて「大屋根 (.) 張っちゃうから」と道具長が言いながら (7) ブルーシートを広げようとする (6)、励翔会の道具長や成翔会数名がそれを手伝う (9, 10, 11)。道具長が背を伸ばして TENT の上にブルーシートを渡そうとする (12)、屋根の頂上が越せない (14)。すかさず成翔会の 2 人が引っかかっているところを持ち上げる (15, 16)。

TENT の反対側でダニエルはブルーシートを押さえるための雪を手で入れて足で踏み固めるという作業をしていた (1, 2)。ブルーシートが TENT の頂上を中々越せないのを見ると、背の高いダニエルが端を持ってそれを越えさせる (17)。山下は TENT を囲うブルーシートの裾を押さえるための雪入れをしている (3)。

5 議論

副委員長組の玉切り, 1 月 13 日午前中の道祖神場の整備を例に、当初は見習いであった者たちが年を追うごとに、その場で行われる活動にどう自身が関われば良いのかを体得していくことをみてきた。多くの活動は予め誰が何をするのか決まっておらず、どんな作業が必要でどこに人手が足りていないのかを判断して適宜手をかすことは容易ではない。特に、1 月 13 日の午前におけるぼや棚や桁係のように、何をするという作業が特に決まっていない場合はなおさらである。

図 11 のブルーシートを越えさせるダニエルを例に目の前の活動に「手を出す」ための必要条件をみてみよう。

1. その活動に参加できる距離にいる (e.g. 雪入れ作業は終わっていたが周囲にいた)
2. その活動の参加者が何をしようとしているかに関心を向けている (e.g. TENT の屋根にブルーシートをかけようとしているのを見ている)
3. 手助けの必要な箇所がある (e.g. TENT の頂上が高く手が届かない)
4. 自分はその手助けをする能力がある (e.g. ダニエルは背が高い)

特に、2 の関心を目の前の活動に向けていることは重要である。図 11 で励翔会道具長と成翔会 1, 2 (9, 10, 11) や成翔会 3, 4 (15, 16) がほぼ同時に動いているのも偶然ではない。図 8 の成翔会委員長と煌心会副委員長の 6, 7 の動き出しも見事に一致している。賣友会ぼや長の動きに関心を向けていたからこそ、同時に別方向から駆けつけられるのである。

ブルーシートを広げたり雪かきを手伝うなどごく些細な手出しである。しかし、その場において必要性に気づいたならただちに手助けすべきという価値観があり、これが三夜講の年数を経るごとに全体に浸透していくのである。躊躇なく手助けのために動き出すという身体技法がその土壌の中で培われていくといえる。

謝辞 調査にご協力いただいている歴代の野澤組惣代・保存会・三夜講の方々に感謝します。本研究は、科研費基盤 (B) 「祭りの支度を通じた共同体 心体知 の集団学習メカニズムの解明」(2015~2017 年度, 代表: 榎本美香, 研究課題番号: 15H02715) の補助を受けています。

参考文献

- Brown, J. S., Collins, A., & Duguid, P. (1989). Situated cognition and the culture of learning. *Educational Researcher*, 18, 32-42.
- Lave, J. & Wenger, E. (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge University Press.